

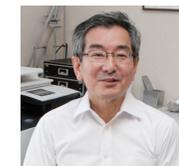
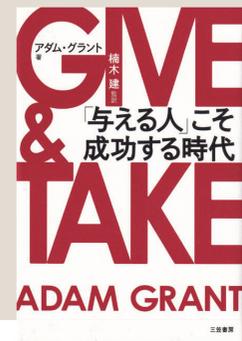
## コロナ禍でも組織を伸ばす! 人材ビジネス業界のリーダー が今、共有すべき「いにしへの叢知、

特集

# コロナ禍を転じて福と為す 「歴史的名著」に学び 「変化に強い」リーダー になる!

コロナ禍で生き残るのは、最も強い事業者ではなく、最も賢い事業者でもなく、「変化できる事業者、である

緊急事態宣言が全国の都府県に拡大するなど、新年早々、新型コロナウイルスが猛威をふるっている。終息がいつになるのかなど、誰も分からない——そんな先行きが読めない暗中模索のコロナ禍。ふと、チャールズ・ダーウインのあの有名な名言を思い出す。「この世に生き残る生きものは、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生きものだ」。また、以前、経営コンサルタントの田坂広志氏への取材の際に、田坂氏に言われた次の言葉も思い出した。「伊藤さん、人がその道のプロフェッショナルとして腕が磨かれるのは、どんな時だと思いますか。それは無我夢中、寝食忘れて、一心不乱の時です。人はそうした経験を通じて腕が磨かれるのです」。厳しいコロナ禍という経験により、多くの人が後日、「変化への対応力、そしてその道のプロフェッショナルとしての腕が磨かれた時間となった」——と感傷にふけられる日も、いずれ訪れる。寺山修司氏は「書を捨てよ、町へ出よう」と言った。外出自粛、ステイホームの今は一旦、「町を離れよ、書を読もう」である。今は歴史的名著から、「コロナ禍を転じて福となす、ためのいにしへの叢知を学ぶタイミングでもあるのかもしれない。では、人材ビジネス業界を牽引するリーダー、マネジャーが今、このタイミングで読んでおきたい歴史的名著とは何か? そこで、「人事書評」の第一人者であり、人事・賃金コンサルタント・社会保険労務士としても活躍する和田泰明氏に執筆を依頼。数ある歴史的名著の中から、人材ビジネス業界のリーダー、マネジャー必読の10冊を厳選し、解説していただいた。(伊藤秀範)



**和田泰明氏**  
(わだ・やすあき)  
和田人事企画事務所  
人事・賃金コンサルタント/社会保険労務士  
人事書評家

1955年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、広告代理店に入社。総務部人事部長などを経て、2001年3月に退職。独立人事コンサルタントとして同社顧問に。在職中の99年に社会保険労務士試験合格。03年5月、和田人事企画事務所として社会保険労務士開業登録。行政書士。複数の人事専門媒体に人事書評の連載を持つ、「人事書評」の第一人者。著書に「パートタイマー採用・育成マニュアル」(共著・東京都産業労働局)などがある。